できる範囲でボランティアを　つえの会

「親孝行が〝助太刀〟を求めています」という見出しで、社会福祉協議会が在宅老人ボランティア募集の記事を広報に掲載したのは昭和六十年の十二月でした。たちまち十数人が集まり、六十一年の一月にボランティアサークルつえの会を結成し、さまざまな活動を始めています。

つえの会では、社会福祉協議会と共催で仲間づくりの会を開いています

お年寄りの仲間作り

「独り暮らしのお年寄りのお話し相手になれないでしょうか、と広報に書かれてあったでしょう。あっこれならできるかな、と思ったんです」と菊地八重子さんは言います。つえの会の会長を務めている菊地さんは「皆さん、少しくらいならお手伝いできるかしらと申し込まれたようです」とも。

現在、つえの会で活動をしているのは二十人ほど。月一回の例会では「できる範囲で」と確認し合っています。活動の中心はお年寄り仲間づくりの会の開催です。町内の独り暮らしや老人世帯の人たちを招いて、調理実習や音楽会、講習会を行っています。

仲間づくりの会に夫婦で参加している阿部鉄作さん、トヨさん（興野・76歳）は「三十年も住んだ佐渡から三年前に越してきて、寂しかったのですが、この会はとても楽しい」と口をそろえます。

在宅には難しい点も

在宅ボランティアの会は昨年五人のお世話をしました。内容は、引っ越してきたばかりの産婦さんのお世話。独り暮らしのお年寄りの話や散歩の相手。料理を作ったり、黒埼荘へ連れて行ったり。しかし、その人たちが入院したりして、今年はまだ一人の申し込みもありません。

「在宅というのは他人の家へ入ってお手伝いすることですからプライバシーの問題や世間体などを考えると難しいですね。もういいですと断られたときはどうしてかしらと悩みました」と菊地さん。

つえの会の活動は家庭奉仕員や老人給食の協力などもあります。でも、菊地さんは言います。「やっぱり在宅ボランティアが目的です。大変ですが自分たちで少しずつ門を開いていかなくては。頼みたいなと思われた人は気軽な気持ちで社会福祉協議会（☎377-3101）かわたしの家（☎377-3188）へ連絡してください」。

つえの会会長
菊地八重子さん
（興野　62歳）

頼みたいかたは気軽な気持ちで連絡してください。菊地さん

つえの会会員の声

前川　スイさん
（寺地　58歳）

5年前に仕事を辞めて退屈でしたの。木目込み人形に凝り始めてしまいました。つえの会の菊地さんから手伝ってもらえませんか、と誘われ、わたしにできることでしたら、と皆さんと木目込み人形をバザーの商品として作っております。

後藤　幸さん
（金巻　66歳）

わたしも今、独り暮らしなのです。つえの会で皆さんと会ったり、一緒に活動したりでとても楽しく自分のためになります。ただ黒埼町は世間体とかを気にしすぎてボランティアを受け入れる態勢ができてないようです。これからですね。

堀井　幸枝さん
（蓮方団地　36歳）

お年寄り仲間づくりの会へは遅くきて早く帰ったりで、あまり手伝えません。できることでいいから、と言われ迷惑にならないように参加しています。自分の母親のような年齢のかたと一緒に活動しますので、とても勉強になりますね。

藤田シヅ子さん
（金巻　59歳）

文化祭のバザーで売る袋物を作っています。昨年は好評でした。やはり自分にできることで人のためになるなんて、とてもうれしいものです。主人と二人暮らしですが、主人も応援してくれています。

4、5ページは町内一千人の老人アンケートから。

＊お年寄りの話し相手やお手伝いをしてくれるボランティアがいます。お願いしたいと思いますか？

＊お年寄りはお年寄り同士、あなたもボランティアに参加しようと思いますか？

＊声①以前ボランティアをしていたAさんは「仕事を始めたので今はできません。でも、したい気持ちは持っています」。

＊声②頼みにくいというBさん「ただでしてもらうのは気がひける。他人に知られたくないこともあるし、自分でするのはいいけど、人にされるのはいや」。

お年寄りに毎月一回お弁当を　保健委員会

「寒い北風の中を心のこもったお弁当を配達していただきまして心からお礼申し上げます。…」といったはがきが届きました。保健委員会で始めた「手作り給食サービス（老人給食）」への礼状です。二年前から毎月一回、お年寄りだけで暮らしている家庭へお弁当を配っています。

10月21日(水)、中央公民館で老人給食の調理。献立は①タラコとコンニャクの煮物②こぶ巻③いり鳥④菊とホウレン草のおひたし⑤漬物⑥果物

寒い北風の中を心のこもったお弁当を配達して頂きまして心からお礼を申し上げます 私達はいつもこの口でしたので今日の薄味の後味が大変美味しく頂きました 今日は私は楽させてもらいました 皆様方によろしくお傳い下さいませ

声かけ運動から始まる

「もともとは声かけ運動から始まったのですけどね」と今ではすっかり定着した老人給食の始まりを小寺フミさんは話します。「保健委員の仕事として、検診に来ないお年寄りを心配して訪問してたりしたわけです。声をかけるだけでは物足らなくなり、月に一回ぐらいお昼を届けたらどうだろうかと保健委員会で話し合い、実行することにしました」。

昭和六十年十二月九日。チラチラ雪が降っていた日に、あたたかいお弁当が町内の十五人の独り暮らしのお年寄りと七組のお年寄り夫婦に配られました。大好評で、たくさんの礼状が役場に届きました。三十年近く保健委員を務めている小寺さんも「このときは本当にうれしかった」と話しています。

月一回五十人分の給食

老人給食は「手作り給食サービス」といって社会福祉協議会と保健委員会の事業で、年間の予算は三十万円（社協二十万円、町十万円）。「それでなくても忙しい」（小寺さん）のに、保健委員会が無償で労力奉仕しています。

毎月一回、お年寄りの声を聴き、栄養を考えて献立を立て、五十人分のお弁当を十人の保健委員さんが作ります。届けるのは、その地区の保健委員さんです。

保健委員の田辺良子さん（蓮方団地）は「玄関の外で待っていらっしゃる人もいて…」、笹川テイさんは「配るときに少しお話を。自分の体のことを教えてくれます」。

ボランティア活動の一つ

老人給食を受けているのは五十人弱。六十五歳以上の独り暮らしか老人だけの世帯が対象で、毎回希望を募っています。「最近は増えませんね。もっとほしい人もいるようなんですが。世間の目を気にして申し込まないようです。無料なのが逆に負担なのかしら」と小寺さん。有料ならいらないという人もいるそうで、思案中。

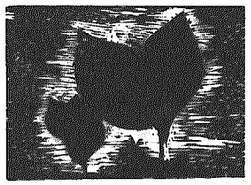
今後については「燕市は一般のボランティアが月二回しています。わたしたちも月二回ぐらいなら今すぐにでもできます。でも、委員のみんなが本気でもっと増やそうと言わない限り月一回でいいと思います。これはボランティア活動だと考えていますから、自主性が大事」と小寺さんは考えています。

施しではなく保健委員とお年寄りのふれあいの一つなのです。小寺さん

保健委員会会長
小寺　フミさん
（金巻）

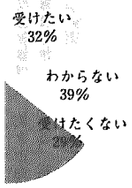
健康は食生活からといいます。老人給食は保健委員会にふさわしいボランティア活動だと思って、月1回行っています。ただ、これは恵まれない人への施しではありません。保健委員とお年寄りのふれあいの1つです。希望される人（65歳以上で独り暮らしか老人だけの世帯）は、お気軽に保健衛生課へご連絡を。無料です。

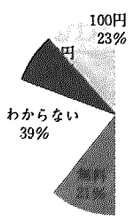
特集　私にできること①　現状の活動を見る



＊保健委員会　会長は小寺フミさん。五十世帯に一人の割合であり、九十四人いる。地域で家庭訪問や調理講習などをするほか、各種検診のお手伝いなど、町の保健活動の中心を担っている。白寿荘（巻町）の障子張りのボランティア活動もしている。

＊老人給食の郡内実施状況　月潟村（月4回）、潟東村（月2回）、味方村（月2回）、巻町（年1回）、岩室村（年1回）、分水町（年2回）、吉田町、西川町はなし。





＊独り暮らしや老人世帯になったら、お年寄り向けの給食を受けたいですか。

＊給食サービスは無料ですが、少しお金を徴収した方がよいですか？